

令和4年3月29日 特別対談

おもな意見(ピックアップ)

- 専門、高度医療は大きな病院とし西伯病院は住民に密接した、かかりつけ医的医療を考えてほしい。

- 町立病院のある町づくりを町の太い柱としてあらゆる角度からの施策を展開できればいいですね。

- 予防的な取り組みとしての健診や健康づくりなど、使用しやすい体制を西伯病院と連携して行うことや医療を真ん中においた地域包括システムをどう作っていくか体制を考えていくことなど。

- 行政と病院と住民が一緒になって「町立病院のあるまちづくり」をしていくための取り組み、・学習会など開催できればいいですね。

- 住まいの機能も考えていく必要があるという町長、院長の言葉は、これから高齢になれていく私たちにとっては心強く頼りになる言葉でした。

- 在宅生活を支える訪問看護の充実、リハビリの充実を。

- 町内の個人病院（気軽に行ける）と米子市の鳥大等の大病院（安心感がある）の中間に位置する西伯病院ですので大変とは思いますが、積極的に病院アピールして欲しい。住民にしつこいほどアピールしないと住民は顔を向けないと思います。

- 私事ですが、先日西伯病院で人間ドッグを受けました。初めての胃カメラですが、非常にスムーズに受けられました。病院としてPRがもっと必要なのではないのでしょうか。

- 外部環境で経営が左右されることは分かるし、戦略をねらないといけないが、企業風土としてスタッフ一同が良くすることは自から出来ること。かつ重要なポイント。職員教育、管理者研修を通じて活気もあり連携がとれ、助け合う仲間になれば効率も上がり、地域からも信頼される病院になると思います。

- 病院の中に庭があることは知りませんでした。病気の治療、発見だけではなく人が集える場所になるといい。

- お年寄りや患者がよく話をされ、幸せそうにしておられる姿を見かける、憩いの場としての病院も必要でないか。

- 厳しい現実が分かった。その中で支え合いの連携、そのサイクル作りをどのような形で作り上げるか考えたい。（住まいの機能）

- 本日の対談で、いろいろな考えを聞き非常に重要だったと思います。特に感じた事は、私たちが「西伯病院の事をもっと知る努力」が必要と思いました。機会があれば地域の皆様にも伝える事が大切と思います。

- 先人の苦勞がしのばれる。私たちの世代で病院を再生させていかないとと思う。

- 公共交通機関の充実を。家～病院、買い物。

- 町内との診療所との連携をして、米子の方への紹介の患者を西伯病院へ回してもらうようには出来ないか。

- デジタル化を進めることが必要。

3月29日 陶山町長×高田院長(現・参与)の特別対談 (会場:キナルなんぶ)
「将来の地域医療について考える。もしこのまちに病院がなくなったら・・・」

